

患者さんへ

「非小細胞肺癌(NSCLC)外科切除例において同一肺葉内肺転移を予測する臨床因子の探索」

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。このような研究では、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得ることが困難な場合には、研究の目的を含む研究の実施についての以下の情報を公開することが必要とされています。

1 研究の対象	2018年1月～2026年3月までに和泉市立総合医療センター呼吸器外科で胸部外科手術を受けた非小細胞肺癌患者さん
2 研究目的・方法	<p>非小細胞肺癌のステージ分類において同一肺葉内の肺転移は稀に経験されます。術前CT(コンピュータ断層撮影)にて肺転移が疑われる症例も一部あるものの、多くは術後の病理診断で判明します。近年、小型肺がんに対し肺区域切除などの縮小切除が選択されることも増えていますが、同一肺葉内肺転移があれば縮小手術後の局所再発につながります。このため、同一肺葉内肺転移を術前に予測することができれば、術式選択において有用であると考えます。</p> <p>本研究は、同一肺葉内肺転移の有無を予測する臨床因子を同定することを目的とします。本研究により、非小細胞肺癌外科切除患者さんの適切な術式選択につながることが期待できます。</p> <p>研究の期間:施設院長許可(2026年3月予定)後～2027年12月</p>
3 情報の利用拒否	<p>情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんのご家族等で患者さんの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合は、「6. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>ただし、ご了承頂けない旨の意思表示があった時点で既にデータ解析が終わっている場合など、データから除けない場合もあり、ご希望に添えない場合もあります。</p>
4 研究に用いる情報の種類	研究対象者背景(年齢、性別、喫煙歴)、病歴情報(原疾患、併存疾患)、検査所見(術前画像検査、採血データ、病理所見)、手術後の治療経過 等
5 個人情報の取扱い	収集したデータは、誰のデータか分からないように加工した上で、統計的処理を行います。国が定めた「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。
6 お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:</p> <p>須田 健一(研究責任者)</p> <p>和泉市立総合医療センター 呼吸器外科</p> <p>住所:大阪府和泉市和気町 4-5-1</p> <p>連絡先:0725-41-1331</p>

2026年2月25日作成(第1.0版)